

宝木区 人権推進協だより

全国水平社100年
を迎えて

会長 秋山 智博

部落差別の解消を目指した
全国水平社の創立(1922年)から
100年になります。

採択された水平社宣言は、
「人間を尊敬することによっ
て自ら解放せんとする」「同情
や哀れみでなく相互の尊敬に
よってこそ人は差別から解放
される」は、部落差別撤廃運動
の歴史的な出発点でした。

また宣言は、人間の尊厳、自
由・平等の理念に基づいて、い
っさいの差別・抑圧
と闘い、部落差別や、
あらゆる差別からの
解放をめざしている
ことから、「日本で
最初の人権宣言」と
もいわれています。
「人間は尊敬されるものだ」



は、今日の日本国憲法第13条
の「すべての国民は個人として
尊重される」とまさに合致しま
す。



展示内容がリニューアルされた
水平社博物館、奈良県御所市
(日本海新聞 2022年2月27日)

100年に及び部落差別撤廃の
運動は幾多の困難を乗り越え、
部落差別をはじめあらゆる差
別をなくす運動へと発展し、
「部落差別解消推進法」・「ヘイ
トスピーチ解消法」・「障害者差
別解消法」・「アイヌ施策推進法」
などの制定の一翼を担いまし
た。

宣言の最後の「人の世に熱あ
れ、人間に光あれ」の重みをか

みしめ、人権が尊重される
地域をつくっていきましよう。

地震対策に住宅改修制度
を活用しよう

昨年12月3日に、山梨県と和
歌山県で相次いで震度5弱の
地震が発生、その前月の11月
7日には、東京や埼玉で震度5
強を観測。特にこの地震では、
交通機関が止まって多くの帰
宅困難者が出たほか、エレベ
ーターの停止や
水道管の破裂
など生活に大
きな影響が出
ました。

その後も、
各地で地震が
頻発していま
す。

これまでの
大地震の教訓
から、事前の
被害防止が大
事です。

鳥取市では市民の生命と財
産を守るために標題の制度が
あります。

発生年	名称	震度	死者	住家等の被害
平成7年	阪神淡路	6~7	6,400人	540千戸
〃23年	東日本	7	16,000人	390千戸
〃28年	熊本	7が2回	273人	43千戸
〃12年	鳥取西部	6強	182人	3.5千戸
〃28年	〃中部	6弱	0人	15千戸



鳥取中部地震 鳥取県公式サイト(とりネット)

ぜひ活用してください。

(概要は以下です)

(1) 平成12年5月31日以前に
建築された木造2階建て以下
で、延床面積280㎡以下の場合。

○耐震診断：無料と有料の両
方あり。

○補強設計：2/3補助で上限
9万円。

○大震改修：4/5または23%
の補助で上限100万円。

(2) 上記以外の建築物や危険な
ブロック塀等の撤去・改修もあ
ります。詳しいことは、

鳥取市役所都市整備部の建築
指導課に問い合わせ下さい。

(☎0857-300-8362)

人権・差別・

1つの言葉に想う

副会長 入江 徹

私の人生で、この言葉は教育そして社会生活のなかで幾度となく耳にし、そして考えた、振り返ると果たして考えたのか、思うに自分の中で乗り物の窓の景色のようにただ通り過ぎただけなのかもしれない、何も残っていないことに気付く。

昨今の差別による、いろいろなトラブルのニュースをなんとなく疑問を持たないで聞いている自分に気付く。

自分では、差別などしていないと思っても自覚のないところで『無意識のうち差別を』と思うと何か怖さを感じてくる。

『無意識の差別』をされたら自分はどうすれば良いのか、しだらどう謝罪すればよいのか、何も解決の方法が見つからない、いかに自分が考えていないか気付く。

こんなことでは、周囲の人をいつどんな言葉で迂闊な行い

で不快な思いに、そして傷付けているか解らない。

『無意識の差別』という行動は、自分に自覚がないだけに繰り返し同様の事をしている可能性はある、それにより人を傷つけ、不快な思いをさせているのであれば、いくら詫びても取り返しがつかない。

昨年などのオリンピック委員会会長の女性差別的な不適切発言等、繰り返し行われてい



本人が自覚して反省しているようには、とても思えませんが、役職を辞任して、それで問題を解決されたように報道するマスコミもあります。

自身、そのようなマスコミ同様問題視しない自分があります、このような感覚ではとても差別を受けた人々の痛み苦しみを感じることはできません。

過日、宝木校区人権啓発推進協議会の研修で倉吉市の人権文化センターを訪れて、差別にかかわる講演を聞く機会がありました。

私は差別の実態を思い知らされました。

差別する人に対して壮絶な戦いをされている、現実を聞き『無意識の差別』の怖さとともに意識的にする差別がいまだ行われていることに恐怖を感じました。



実は、強不足を反省したいと思いま

昨今はSDGsの言葉が世界の中で叫ばれています。言葉ではなく、インターネットウェブサイト等を使い卑劣な人権侵害が行われていることを知らされて文明の利器の使い方

なぜ、何を目的にする現実がある。事をするのか私には理解できない、差別する人に対してされる側の立場に立って思いを巡らしていただきたい、声を大にして訴えたい。

人権、差別、という言葉で現在も戦っている人たちがいる

事を、もっと身近な物事としてとらえて皆で考えていくことが、私たちがすべきことではないでしょうか。

人権、差別、この言葉の重さを感じる事が出来るように今日から心のアンテナを広げていきます。

もし私が傷付けた人が在るなら、反省の気持ちを込めてここに詫びいたします。

この私が今気づくように、自分で機会に触れることにより少しでも周囲の人の痛み苦しみを感じ、疑問、問題意識の持てるように、人権の地域懇談会などの機会に、更に沢山の人の参加していただきたいと思



編集後記

コロナ禍の中で事業が計画通り実施出来なくて大変、残念に思います。

宝木校区の皆様と事業が計画通りに交流が持てる様に、一日も早い収束を願っております。

